

Obstetric Analgesia Case Report より安全な無痛分娩を目指して Part2

Vol.2



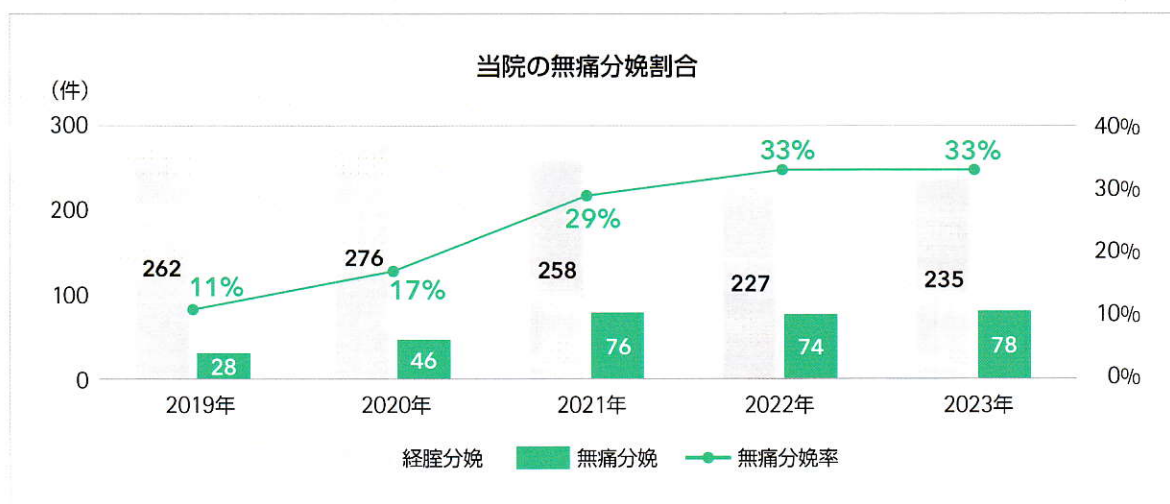
かの産婦人科クリニック 菅野 俊一 先生

当院の無痛分娩に対する取り組み

かの産婦人科クリニック(以下、当院)は茨城県県南の取手市にある分娩を取り扱う有床診療所である。無痛分娩は妊産婦の希望により実施している。2020年4月から毎月、無痛分娩に興味のある妊産婦を対象に無痛分娩教室を開催し啓蒙活動を行っている。無痛分娩教室では、使用する針や実際

に妊産婦の背中からイメージしてもらうなど事前説明を行った上で無痛分娩の医学的適用に関する事項を除き妊産婦によって選択されている。

2020年から無痛分娩の希望者が増加しており、無痛分娩教室の実施もこの増加に影響していると実感している。以前は硬膜外麻酔のみを基本的に実施していたが、分娩の変遷の早い経産婦にはCSEA(脊髄くも膜下硬膜外併用)を実施している。



無痛分娩の麻酔知識習得と実践

無痛分娩について触れる機会となったのは、無痛分娩を実施していた施設に勤務したことが発端である。当時は「無痛分娩は施設方針でやらなければならない」といった考えを持っていた。また、2%キシロカインに0.25%のマーカイン

の麻酔薬が採用されており、必要以上に運動神経に麻酔が作用し、妊産婦が上手くいきめなくなり、分娩時間の遷延が多々見られていることが課題であった。こうした状況を踏まえ自身の無痛分娩には、麻酔レシピの見直しを行い、無痛分娩の質の向上を目指した。具体的には、天野 完先生(北里大学)、照井 克生先生(埼玉医科大学)、角倉 弘行先生(順天堂

大学)の著書を参考にし、無痛分娩研究会(現日本産科麻酔学会)にも参加し様々な先生と交流した。現在は0.1%アナペインに2 μ g/mlフェンタニルを添加し無痛分娩を実施している。今では、妊産婦の満足度も高く、日常臨床をより良くするための確かな情報収集の重要性を感じている。

硬膜外穿刺の課題と取り組み

硬膜外腔の同定に局所麻酔時に棘間靭帯の抵抗を確認した後、抵抗消失法により硬膜外穿刺を行ってきた。時として遭遇したのが硬膜外腔への到達が困難な症例で、穿刺に1時間弱を要することがあり、妊産婦に負担をかけることがあった。主に経産婦に実施しているCSEA針では穿刺すべき方向が定まらず、時間を要することや断念することもあった。硬膜外穿刺時には超音波エコーを用いたプレスキャンによるアプローチ方法もある。穿刺すべき方向・目安となる深度が画像で確認できるB.Braun社製の超音波エコーAccuroを導入することで、硬膜外腔穿刺が困難な症例に時間を要することは減った。またCSEAでは、より正中に穿刺する必要があるため穿刺時は滅菌プローブカバーを使用し、穿刺深度及び方法を同定後に素早く穿刺に移ることができるようにしている。これは妊産婦の体動や消毒の際に穿刺の方向を見失わないために行っている。これらのことから、硬膜外腔穿刺時に時間を要することが減り妊産婦の負担と術者の心的負担が軽減された。



まとめ

無痛分娩を希望する妊産婦へ無痛分娩教室では、実際に使用する機器や椎体の状態を確認しておくことで妊産婦の正しい理解と満足度向上につながる。

無痛分娩を始めるにあたり、学会への参加や著書による麻酔知識の習得は重要であり、今ではJALA(無痛分娩関係学会・団体連絡協議会)の講習を受けて学ぶなど様々な機会が増えてきている。

麻酔針の穿刺困難の課題に対して、Accuro導入後は、硬膜外腔穿刺の手技に対する負担が減ったと同時に、妊産婦への負担軽減を図ることが出来た。これからも継続して使用していきたいと考えている。

製造販売元

ビー・ブラウンエスクラップ株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷2-38-16

カスタマーサービスセンター

TEL 0120-401-741(フリーダイヤル)

www.bbraun.jp



Webサイトにも
最新情報掲載中
ご活用ください

販売名: 超音波診断装置 ACCURO
認証番号: 229AFBZX00052000
販売名: ACCURO プローブカバー
届出番号: 13B1X00218412001